



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島司教区 電話099(226)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円



### もつと教会維持費の大切さを訴えよう

## 今年度初の教区経済問題評議会

五月十日(日)午後、教区本部で教区会計の昨年度の決算と今年度の予算を審議する今年度最初の「経済問題評議会」が開かれ、どちらとも概ね了承された。

まず、未だに多くの小教区から教会維持費を源とする教区費の納入が増えないことと、教会維持費を増やすことで教区財政が安定するのではなければ、教区の基礎をなす小教区会計の安定は望めないし、いつまでも教区会計は正常にはならないとの意見だった。またそのこ

とに対する説明が、教区からも主任司祭からも信徒に十分に伝えられていないことが指摘され、今後はより詳しいデータの分析を通して、より分かりやすい説明で信徒のやる気を引き出すことが重要であることが強調された。またこの日の会議では、



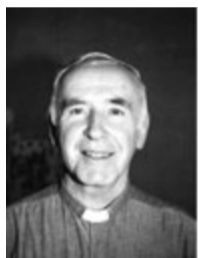
ザビエル教会から要請のあったパイプオルガン維持のために行いたいとする「輻

### 教区の感謝の思いをささげる

## 故J・レヒナ神父追悼ミサ

四月七日(火)入院先のドイツの病院で帰天したレデンプートル会のヨハン・

レヒナ神父(八十歳)を偲ぶ教区主催の「感謝のミサ」が五月十日(日)午前十一時からザビエル教会



故レヒナ神父

郡山健次郎司教司

式のミサには、主日のミサ直後という時間帯にもかかわらず二百人を超える信徒が参列した。

司教とともにミサを司式したのは司祭十一人と助祭四人だったが、助祭団の中には三月下旬にフィリピンで叙階された貴島丈弥助祭と昨年八月に韓国で叙階さ



遺影の前で献香する郡山司教

れ、来日したばかりのベネディクト・朴鎮亮(パク・ジン・ヤン)助祭の姿もあつた。福音朗読後に説教した郡山司教は、レヒナ神父の経歴を振り返り、若くして日本に派遣され、管区長まで務めた神父の功績と温かい人柄を偲んだ。その上で、司教は「レヒナ神父が故国ドイツを離れて日本にやってきたのは、単に使命感からだけではない。神の愛にこたえたかったからだ」と述べ、今、神父はこの世での役目を終えて、次のステージである神の国に入ると

いつまでもお元気で H・ハヌス神父帰国 レデンプートル会のハンス・ハヌス神父(八十一歳)は、四月下旬、故国ドイツはガルスにある同会本部修道院へと戻った。ハヌス神父は一九五五年

### 2015年きぼうの電話

## カウンセリング講座日程

回	月	日	曜	講師	内容
*	6	13	土	事務局	説明会 14時と19時(2回)
第1回	6	19	金	竹山 昭神父	共に歩むためにI
第2回	6	26	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識I
第3回	7	3	金	有倉巳幸先生	職場の人間関係
第4回	7	10	金	大坪治彦先生	カウンセリングの基礎知識II
第5回	7	17	金	有倉巳幸先生	人間関係の中のストレス
第6回	7	27	月	森口 進先生	アルコール依存症-その関わりI公開講座
第7回	8	3	月	森口 進先生	アルコール依存症-その関わりII公開講座
*	8	28	金	事務局	親睦会①
第8回	9	4	金	今林俊一先生	家族の人間関係
第9回	9	11	金	今林俊一先生	青少年の心理I
第10回	9	18	金	今林俊一先生	青少年の心理II
第11回	9	25	金	事務局	電話カウンセリングの実際①
第12回	10	2	金	事務局	電話カウンセリングの実際②
第13回	10	9	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにI
第14回	10	16	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにII
第15回	10	23	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIII
第16回	11	6	金	大坪治彦先生	よい聴き手となるためにIV
第17回	11	13	金	郡山健次郎司教	それでも「きぼうの電話」
第18回	11	20	金	竹山 昭神父	共に歩むためにII
第19回	11	27	金	竹山 昭神父	共に歩むためにIII 修了式・認定式
第20回	12	4	金	事務局	電話カウンセリングの実際③
*	12	11	金	事務局(研修)	新人オリエンテーション

射熱対策ブライインド及び空気調和設備工事」の費用のための特定預金の取り崩しについて審議され、教区会計からは四百万円を支出することが承認された。

### きぼうの電話が

## カウンセリング講座

苦しみを悩んでいる人たちの声を聞き、彼らのためのオアシス(耳)になろうと教区が運営する電話ボランティア「鹿児島きぼうの電話」の今年のカウンセリング講座が六月十三日(土)スタートする。

よりよい人間関係を築くために不可欠なことを教えてくれるというこの講座、受講後、希望者は相談員に

働き続けた。再び、鹿児島教区に戻ってきたのは二〇〇六年で徳之島、沖永良部で司牧に従事していた。



### 日本カトリック社会司教委員会主催

## 現代世界憲章シンポジウム

「発布50周年にあたって」

日 時 6月14日(日) 13時30分から16時30分まで  
場 所 鹿児島カテドラル・ザビエル教会  
※勝谷太治司教(札幌教区)、大塚喜直司教(京都教区)、松浦悟郎(名古屋教区)、ホアン・マシア神父(導入・イエズス会) 郡山健次郎司教(司会) 参加申し込み不要 参加無料

### 「短信」

▼玉里教会 玉里教会(小隈憲士神父)では、五月十日から「第二バチカン公会議 公文書を学ぶ」勉強会がスタート。毎月第二日曜日のミサ後に実施される予定。

なることもできる。受講できるのは二十歳以上で、受講料は九千円(学生半額)となっている。講座は午後七時から九時まで教区本部で開かれる。受講希望者は山口運営委員長まで(TEL〇九〇一一一六二一七三七二)。



# 鹿児島教区の司祭・助祭

## 2015年5月現在



鹿児島教区長  
郡山健次郎司教



名誉司教  
糸永真一司教



教区本部  
末吉卓也神父



教区本部  
美島春雄神父



教区本部  
朴 鎮亮助祭



出水教会  
萩原義幸神父



阿久根教会  
牧山田一神父



阿久根教会  
石神秀人助祭



大口教会  
アッシャー神父



入来教会  
ハンマ神父



川内教会  
大松正弘神父



溝辺教会  
坂本 進神父



国分教会  
サンタマリア神父



始良教会  
東 研神父



吉野教会  
鈴木康由神父



ザビエル教会  
竹山 昭神父



ザビエル教会  
アン神父



玉里教会  
小隈憲士神父



鴨池教会  
泉 浩二神父



鴨池教会  
山口好信神父



鴨池教会  
桃園淳一郎助祭



谷山教会  
頭島 光神父



谷山教会  
ムイベルガ神父



レデンプトール  
会鹿児島修道院  
山口重義神父



谷山教会  
久保俊弘助祭



紫原教会  
小川靖忠神父



指宿教会  
寝占敦之神父



加世田教会  
サントス神父



加世田教会  
川口 茂助祭



枕崎教会  
スティープ神父



垂水教会  
丸野六雄神父



鹿屋教会  
宋 診旭神父



志布志教会  
ディーノ神父



種子島教会  
鄭 法鐘神父



大笠利教会  
内野洋平神父



瀬留教会  
タム神父



大熊教会  
栃尾泰英神父



古田町教会  
松永正男神父



古田町教会  
西山達也神父



古仁屋教会  
久保芳一神父



喜界島教会  
四條淳也助祭



聖心教会  
永山幸弘神父



聖心教会  
貴島丈弘助祭



小宿教会  
ティエン神父



母間教会  
メニッチ神父



母間教会  
池上聖行助祭



和泊教会  
福崎英雄神父



純心聖母会  
岡 俊郎神父



神学院（東京）  
中野裕明神父



聖マリア学園  
田原 章神父



大島地区長館  
大野和夫神父



めぐみの園  
松森孝郎神父



恵の丘（長崎）  
田邊 徹神父



引退（東京在）  
成相明人神父



出向（横浜教区）  
浜崎真実神父





# 五十年のすべての出来事に感謝

## 記念のミサでレデンプトル宣教修道女会

レデンプトル宣教修道女会の来日五十周年を記念する感謝のミサが、五月五日(火)午後、谷山教会で



挨拶する総長と通訳のSr.ヒルデガルデ

ささげられた。同修道女会は、聖アルフオンソの精神に基づき一九五七年にミュンヘン管区の男子のレデンプトル会によって創立された会。鹿兒島で働くことになったのは一九六五年のこと、当時の教区長・里脇浅次郎司教やレデンプトル会鹿兒島標準管区のミタマヤ管区長の招きにこたえてのこと。最初に派遣されたシスターはカタリナ、スザンナ、モニカの三人で、四月十七日にガルス修道院で派遣式が行

われ、鹿兒島に到着したのは、五月六日のことだったという。それから五十年、同会では女子学生寮の経営、各地でのカテキスタ、看護士としての病院勤務、幼稚園を

### 来日五十年式典における

#### マーガレット総長の挨拶

#### 抜粋

郡山司教様はじめ鹿兒島の神父様、来賓の皆様、レデンプトル会の瀬戸管区長様と会員の皆様、姉妹の皆様、本会が来日して五十年になりました。私たち三人のシスター

はじめとする教育機関での奉仕、児童養護施設の運営、高齢者のための奉仕など様々な分野で尽力している。午後二時から始められた来日五十年の式典では、鹿兒島の責任者シスターモニカが「神が五十年の間、私たちと一緒にいてくださったことに感謝したい」と挨拶、その後、郡山司教と二十人を超える司祭団によ

は、そのお祝いのためにドイツの総本部から来ました。司教様はじめ皆様と共にこの鹿兒島の地でお祝いできることをとても喜んでおります。私たちは日本での五十年の歴史を皆様とご一緒に神様の導きに感謝したいと思

### 司教執務室便り

#### 6月を民間信心月間に



最近、信心の大切さを説くことが多いことに我ながら少し気になってきたのでいろいろ調べてみました。すると、中央協議会のホームページで次の文章を見つけました。

「とりわけ司教たちの役割は、信心業については、これを奨励し、司牧上積極的な態度で臨み、信心業の成果がキリストの民の信仰を保つうえで大きな価値があったこと、またあることを評価することにある。」この文章は二〇一〇年の全国典礼担当者会議で、典礼学者のフランコ・ソットコルノラ神父様が紹介されたもので、二〇〇一年十二

月十七日、典礼秘跡省から出された指針「民間信心と典礼」の一節。ともあれ、自分の思い込みではないことがはつきりしてホッとしただけでなく、心強い味方を得たようで嬉しくなりました。神父様の話は次のような文章で締めくくられていました。

「典礼は教会生活の中心です。けれども、花は種だけで生きているのではなく、花びらや葉も広げて生きることを出しなさい。信心業は心の花びらです。心が自由に表現される場なのです。信心業は、日々の生活の中で、司祭が

不在の場合であっても、信者を生き生きとさせることができるのです。」典礼が花なら「信心業は心の花びら」。なんと美しい表現かとこれまた嬉しくなりました。最高の典礼であるミサという花を美しく咲かせるためには花びらや葉といったいろいろな信心業が生きていなければなりません。六月は信心の月と呼ばれています。啓示を受けた一人の少女から始まった文字通りの民間信心が「イエスのみ心」の祭日として教会全体で祝われるようになり、今年、今月は、「民間信心月間」として、これまで以上にロザリオはもちろん「ノベナの祈り」や聖体礼拝、その他の信心業に励んでほしいと思

るミサがささげられた。ミサには各地から二百人近い信者が駆けつけ、シスターたちの働きに感謝の祈りをささげた。祭壇に近い席に並んだレデンプトル宣教修道女会の会員たちだったが、その中にはマーガレット総長と総長秘書のほか長年鹿兒島で働き、今はウクライナでの使命に邁進しているシスターヒルデガルドの姿もあった。

において、両方の体験をなさっていると思います。司教様をはじめ、レデンプトル会の神父様たち、鹿兒島教区の神父様方、修道者の皆様、日本の姉妹の道を忠実に同行してくださっている皆様に、今日特別に感謝したいと思

は、本会で道のある部分と一緒に歩いて今は会を去った方々、そして、本会の他の地区からしばらく日本と一緒に生活していたシスターたち、特に今日ここで一緒に祝いすることができ

るシスターヒルデガルデ、そして私たちに先だって神様の元に召されたシスタースザンナ、シスター重にも感謝したいと思います。

### 会と催し (6月)

- 1日(月) 三教区司祭合同黙想会・指宿市・5日
  - 6日(土) YOUNG CATHOLIC 学習会・種子島
  - 7日(日) キリストの聖体
  - 12日(金) 第三十七回奄美カトリック女性連盟総会・古田町教会・11時
  - 13日(土) 東研神父、泉浩二神父、鄭法鐘神父霊名(アントニオ)
  - 14日(日) 宣教学校・ザビエル教会・13時30分
  - 14日(日) 年間第十一主日
  - 16日(火) 社会司教委員会シンポジウム・ザビエル教会・13時30分
  - 21日(日) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
  - 21日(日) 年間第十二主日
  - 24日(水) カトリック北薩大会・13時・鹿兒島純心女子大学「江角記念ホール」
  - 24日(水) 奄美の宣教司牧を考える会
  - 28日(日) 洗礼者聖ヨハネの誕生
  - 28日(日) 年間第十三主日
  - 29日(月) 鹿屋教会堅信式・10時
  - 29日(月) オリープの会・教区本部・14時
  - 29日(月) 「ペトロ霊名」竹山昭神父、美島春雄神父、永山幸弘神父
  - 29日(月) 「パウロ霊名」郡山健次郎司教、糸永真一名誉司教、小隈憲士神父、坂本進神父、アン神父
  - 30日(火) 司祭評議会・教区本部・14時
  - 30日(火) 教区司祭会・教区本部・16時
  - 30日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 【ノベナ】教区の児童福祉関連施設のため(8~17日) 祈りの意向
- 【祈祷の使徒会】世界共通・移民・難民
- 宣 教・召命
- 日本の教会・困難の中にある家庭

**+KABAYAN SEKSIYON+**  
**Pantay na Dignidad, Magkabahagi sa Pagsunod**

Binibigyang pansin ng ikalawang Konsilyo Vaticano na "ang Simbahang Banal ay nakanyos at pinamamahalaan ng isang pambihirang diversity"(LG 32). "Ang katawan ay binubuo ng maraming bahagi, at hindi pare-pareho ang gawain ng bawat isa. Gayon din naman, tayo'y marami ngunit nabubuo sa iisang katawan ni Kristo, at isa'y bahagi ng iba" (Rm 12:4-5).

Ang batayan ng ating pagkakapantay-pantay at magkatulad na dignidad (laiko, relihiyoso, kleriko) ay ang Sakramento ng Binyag, kung saan lahat ng bumubuo sa Katawag Mistiko ay napapabilang kay Kristo na siyang Puno. "May isa lamang Panginoon, isang pananampalataya, at isang binyag (Ef 4:5)".

Batay sa iisang pinagkakakilanlan sa lahat ng mga binyagan, binibigyang diin ng Konsilyo: "Kung kaya't kay Kristo at sa Simbahan walang umiiral na di pagkakapantay-pantay batay sa lahi o bansang pinagmulan, estado sa buhay o kasarian sapagkat 'wala nang pagkakaiba ang Judio at ang Griyego, ang alipin at ang Malaya, ang lalaki at ang babae-kayong lahat ay iisa dahil sa inyong pakikipag-isa kay Kristo Hesus" (Gal 3:28; Col 3:11)" (LG 32).

Ang pantay na dignidad ng lahat ng mga binyagan ay humahantong sa magkabahaging pagsunod.

Kaya lahat tayong mga Kristiyano Katoliko ay may pantay-pantay na dignidad bilang mga taga-sunod ni Kristo at kailangan natin magkaisa sa iisang pananampalataya.

**Katesismo sa "Taon ng Pananampalataya (Fr. Dino Orolfo)**



神学生の信徒総代に聞く②

初の女性信徒総代 聖心教会 平 郁代さん

小教区の司祭を支えるとともに信徒をまとめ、教会運営や年間行事等の教会活動に陰日なたと心を配る、縁の下の力持ち―そんな信徒総代にスポットを当て、各小教区の現状や課題等を聞くシリーズの第二回。昨春、奄美群島の中心教会、名瀬聖心教会で初の女性信徒総代となった平郁代さんに聞いた。

橋渡し

「次世代への橋渡し」を意識したのは理由はいろいろ。現在、聖心教会では班制度の見直しに着手。その充実と活性化を図っている。高齢化の進む教会において、その取り組みには意識改革が伴う、若い人たちの力が必要と考えた。「従来のあり方を改めるにあたり、若い人たちが抵抗は少ないから」。

初的女性信徒総代 奄美群島で最大、鹿兒島教区でも第一位の信徒数(815人)を擁する名瀬聖心教会。平郁代さんは昨春、同教会では女性として初の信徒総代に選出された。女性信徒総代の誕生に戸惑う信徒も少なくなかったという。

「私自身が抵抗を覚えたほどでしたから」と平さん。「信徒の皆さんの『使い走り』に徹しよう」とその任に。「総代の器でないのは、私が一番よく知っている」。だからこの一年、「せめて次世代への橋渡しができれば」と考えてきた。スタ



フェリエ神父の胸像前で

ツフに若手を登用。「若い人の発想を生かし、教会を活性化したい」。何より、「若い人への道を作りたい」と平さんは語る。

「次世代への橋渡し」を意識したのは理由はいろいろ。現在、聖心教会では班制度の見直しに着手。その充実と活性化を図っている。高齢化の進む教会において、その取り組みには意識改革が伴う、若い人たちの力が必要と考えた。「従来のあり方を改めるにあたり、若い人たちが抵抗は少ないから」。

昨年、班制度の学習期間と位置づけた。各班で全員の把握に努め、教会行事のほとんどを班単位による輪番制にする。教会活動において、「各班に自覚が芽生えた」という。従来通り全員で行ったバザーでも、班で役割分担。これまでバザーで買物するだけだった教員も、スタッフとして参加する姿が見られたという。

また若手登用の効果は、司牧評議会などでも顕著。「意見が多く出るようになってきた」。

思い出 しかし平さんは、もっと勢いのあった時代の教会を知っている。子どもの頃、下校時はいつも教会の図書館に立ち寄り、夕刻まで過ごした。日曜学校など、要理教室があ

との思いは、それぞれの立場や方法論は違っても、信徒の誰にも共通だろう。「昔はよかった」と懐かしんでばかりいても始まらない。特に平さんの脳裡から離れないのは、ある会合で若いスタッフから出た声。「班の将来について、教会の未来について考えてほしい」。

一方で現在、順調に進んでいるように見える班制度の見直しでも、各班それぞれにさまざまな事情を抱えている。班としての機能が将来、というより喫緊に危ぶまれる班もある。また班制度の充実・活性化の掛け声の陰で、却ってモチベーションを失う信徒も。信徒の数だけ、思いはさまざま。

献堂五十周年 奄美でのカトリック宣教は、フェリエ神父が来島した一八九一年(二説には、既に一七七〇年代に信者がいたとも)。以来、迫害、空襲、米軍統治、本土復帰、名瀬大火など、信徒の喜怒哀楽と共に名瀬聖心教会はあった。常に奄美の中心教会として象徴的存在だった。

思いはさまざま 「そんな教会をふたたび」

「レンガみどう」と親しまれた初代お御堂(一九二二年竣工)は戦前、名瀬の名所。二代目お御堂(四九年竣工)は蔵書約五千冊の本格的図書館を併設し市民の民度向上に貢献した。作家・島尾敏雄も受洗(五六年)。

鈴木神父のやさしいみ言葉 「塩」と「光」を巡って

イエス様のたとえ話は分かり易いものこそ誤解してしまうものです。その典型が「ファリサイ派の人と徴税人」のたとえ(ルカ18・9)と言えます(ルカ18・9)。

「主である」わたしが喜ぶのは愛であっていけにえではなく神を知ることであって、焼き尽くす献げ物で

「身を守る」という意味があります。このことを踏まえて考えれば、ホセアの言葉には「神様は供え物に

「愛」と訳された原語と「愛」と訳された原語です。この「愛」と訳された名詞には面白いことに「誠実」、「慈しみ」という良い意味と「咎め」、「恥」というあまり良くない意味があります。また、「喜ぶ」と訳された動詞にはどういうわけか「身を屈める」という意味があります。このことを踏まえて考えれば、ホセアの言葉には「神様は供え物に

「身を守る」という意味があります。このことを踏まえて考えれば、ホセアの言葉には「神様は供え物に

カトリック北薩大会

6月21日(日)

場所：鹿兒島純心女子大学川内キャンパス「江角記念ホール」

テーマ：寄り添う

開会：13時(昼食はすべてご来場ください。)

内容：司教講話と分かち合い。その後(堅信式)

担当：川内教会 (TEL0996-22-3738)

- 短歌 鴨池教会 前田 儀子
聖地への旅はかなはざりし亡き妹を想ひ木のマリア像やさしく磨く
鹿兒島純心 川上 和
何事も御手の業と捧ぐれば希望の光として明るく
大口教会 森 博伸
今もなをかの御言葉に立ち止る芽吹かぬころの麦を見つめる
吉野教会 中江 均
聖木曜日ミサ中に笑みこらえしし洗足を拒みし後のペトロの言葉
出水教会 遠竹 睦郎
鳥の声しきりと聞ゆ吾が家で朝の祈りを今日も捧げぬ
大笠利教会 稲 牛憲
アンゼラスの鐘の音ひびきて自転車を下りて押しつつ短く祈る
溝辺教会 松元 史江
新緑の木々深き地に労働と祈りに生きる修道女住む
俳句 鹿兒島純心 川上 和
ザビエルの足跡ひろい春くるる
出水教会 遠竹 睦郎
教会に花咲き誇る五月かな
吉野教会 徳永ノブ子
新緑のすがすがしい聖母月母の日や野良着姿の母徳ぶ
霧島市 政 ノブ子
あどけさや侍者の少年母子草

